

「救い主の掟を思い出す」

2019年07月13日

ペトロの手紙 二 3章1節～7節 愛する人たち、わたしはあなたがたに二度目の手紙を書いています、それは、これらの手紙によってあなたがたの記憶を呼び起こして、純真な心を奮い立たせたいからです。聖なる預言者たちがかつて語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた、主であり救い主である方の掟を思い出してもらうためです。まず、次のことを知っていなさい。終わりの時には、欲望の赴くままに生活してあざける者たちが現れ、あざけて、こう言います。「主が来るという約束は、いったいどうなったのだ。父たちが死んでこのかた、世の中のことは、天地創造の初めから何一つ変わらないではないか。」彼らがそのように言うのは、次のことを認めようとしなからずです。すなわち、天は大昔から存在し、地は神の言葉によって水を元として、また水によってできたのですが、当時の世界は、その水によって洪水に押し流されて滅んでしまいました。しかし、現在の天と地とは、火で滅ぼされるために、同じ御言葉によって取っておかれ、不信心な者たちが裁かれて滅ぼされる日まで、そのままにしておかれるのです。

「著者」は、「愛する人たち、わたしはあなたがたに二度目の手紙を書いています、それは、これらの手紙によってあなたがたの記憶を呼び起こして、純真な心を奮い立たせたいからです」と語りかけている。「二度目の手紙」とは、一度目の手紙がⅠペトロ書で、二度目が本書、Ⅱペトロ書であると言っている訳である。著者は同じく使徒ペトロと書かれているが、これらは偽名文書で、ペトロが書いた手紙ではない。両書が書かれた年代は違い、従って、書かれている事態も異なっている、同一著者とは思えない。しかし「著者」は、これら二つの手紙によって、あなたがたの記憶を呼び起こし、純真な心を奮い立たせたい。それは、旧約聖書時代の聖なる預言者たちが語った言葉と、あなたがたの使徒たちが伝えた、主であり、救い主である方の「掟」を思い出してもらうためであると言う。

ここから、偽教師たちの主張について語っている。第一には、世の終わりが来る時に、彼らが現れ、欲望の赴くままに生活し、主イエスの掟を生きるキリスト者たちを嘲る。そして、「主が来るという約束は、いったいどうなったのだ。父たちが死んでこのかた、世の中のことは、天地創造の初めから何一つ変わらないではないか」と言う。教会は主イエスが雲に乗って再臨し、世の終わりの裁きの日が来ると宣べてきた。ところが、それを語った父である使徒たちは死んでしまい、世の中は、天地創造の初めから何一つ変わっていない。使徒たちが宣べ伝えた終わりの時の裁きは偽りで、偽教師たちは、世の終わりが来ることはなく、終末信仰は過ちであると説いたのである。この主張に賛同する人々は多かったであろう。いくら待っても、世界は変わることなく、裁きの終末の日は来ない。これに対し、「著者」は下記のように反論している。天、即ち、神の世界は大昔から存在していた。地は神の言葉によって成り、水を元として造られた。ノアの時代、罪と悪がはびこり、神は洪水を起こし、神に従う、無垢なノアの家族8人は救ったが、地の住民も生き物も、水で押し流し、当時の世界を滅ぼしてしまった。しかし、現在も天と地は、火で滅ぼされるために存在している。神は不信心者たちを、裁かれ滅ぼされる日まで、そのままにしておかれる。現在も天と地は神の言葉によって保たれているが、その先には、かつては水で世界が滅ぼされたように、火による滅びが待っている。天地は、それまでの間、神の猶予として保たれているが、終わりの裁きの日は必ず来ると反論しているのである。